

激動の人生を送り、味わい深い演奏で聴衆を魅了してやまないフジコ・ヘミング。5月に、所沢ミュージズの長期休館前のラストリサイタルで再びアークホールに登場します。ピアノと出逢った幼少期から、現在のパリと東京での暮らしまで、様々なお話を伺いました。

### ＊幼少期、ピアノとの出逢い

6歳の頃でしたか、大田区の大森に住んでいました。子供向きの大きな楽譜の下段に色鮮やかなおとぎ話のようなさし絵が入っていて、それを見るたびに胸がワクワクしました。が、肝心の音楽の方はまったく覚えていません（笑）。

### ＊子供の頃、レッスンの思い出

私は一人であるのが好きな性質で、友人とはがっかりするような思い出の方が多いのです。小学校のときレオニード・クロイツァー先生のレッスンでショパンを弾きました。彼はおどりがあって喜び、「いまに世界中の人を感動させる」と母に云っていました。16歳で右耳がまったく聴こえなくなり、コンサートをして自分上手なのか下手なのかわかりませんでした。当時はテープレコーダーもありませんから。

### ＊ベルリンとウィーンの留学時代

私の子供のときからの師、レオニード・ク、

### ＊パリと東京の生活

～自宅のピアノ

パリはユトリ口の画のように美しい芸術の町だとつくづく感じ、毎日犬と歩くのは夢ごちです。東京では暗くなってからしか歩きませんね（笑）。

パリの自宅にはスタインウェイ、東京にはヤマハ、京都の家にはベシユタインのピアノがあります。私はあまりピアノのメーカーにはこだわりません。東ヨーロッパ、ポーランド、チェコ、ロシアなどでは、ピアノがボロの場合も相当にありますから（笑）。あたえられた楽器で最高の音をそこから出すようにとめています。

### ＊絵画への思い

絵をかくのが好きなのは父の影響だと思えますよ。

私の父は当時、朝日イブニングニュース紙に連載でマンガを出しているくらいの人材でしたが、戦争でチャンスも消えてしまったと思います。父が日本を去るとき、母にくれぐれも子供を画家にはしない様だのんだそうです（笑）。

どの画家が好きとは特に云えませんが、その中のどの画とは云えます。特に気に入っているのは、ロートレック、北斎など。ロートレックのふで使いは北斎にもにっていますね。

### ＊敬愛する音楽家

指揮者で敬愛するとすれば、ベネズエラのグスターヴォ・ドゥダメル、レナード・バー

# 魂のピアニスト フジコ・ヘミング

## Ingrid Fuzjko Hemming



パリの街角で



人生の大切な「ハンリョ」猫ちゃんと



グルダ、デームスと共に世界を席捲した、ウィーンのパウエル・バドゥラスコダ先生



フジコさんの人生に大きな影響を与えた名指揮者レナード・バーンスタイン



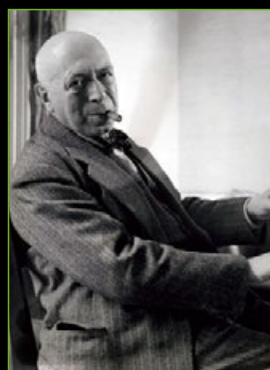
気鋭の指揮者グスターヴォ・ドゥダメル



フジコさんがピアニストとして敬愛するセルゲイ・ラフマニノフ



幼少の頃ピアノと出逢うのはもう少し後



ラフマニノフとも共演した偉大な音楽家 恩師のレオニード・クロイツァー先生



犬や家族と散歩するのが楽しみ



絵を描くのが好きなのは父親譲り

### フジコ・ヘミング ピアノソロコンサート

5月5日（土・祝）  
14:15 開場 15:00 開演

アークホール

S席 ¥10,000

A席 ¥8,000

B席 ¥6,000

曲目◆リスト：ラ・カンパネラ ほか

※未就学児の入場はご遠慮ください。

好評発売中

注）フジコさんにご回答いただいた表現・仮名づかいを尊重して編集しました。（編集部）

犬と猫は、私の大切な「ハンリョ」です。人間はしゃべりすぎるので、いつも傷ついてしまいますが、動物たちは無言で寄りそってくれます。彼らなしにいまの私はなかったと云っていいでしょう。20代の頃は捨て犬をかかっていましたが、私のショパンやチャイコフスキーを聴くと歌う犬で、テレビ局から取材に来て、スタジオにも呼ばれてライブ放映されました（笑）。

いま、東京にいる25匹の猫のうち1匹だけ私の演奏を聴いているのがいます。ピアノの上でじっと聴いていますが、いつもではありません。パリのワン公も東京で去年死んでしまった犬も全然です。演奏を聴いてもなにも感じないようです。

### ＊愛するワンちゃん・猫ちゃんについて

ンスタインくらいのもんです。ピアニストではあまりいません。まねしたいと思う弾き方をしているのはラフマニノフくらいです。

### ＊思い出の楽譜

～思い出に残る共演者

ロイツァー先生は、いまでもモスクワ・フィルの方たちも知っている大物です。でも、留学したベルリン芸術大学には、クロイツァー先生のような天才はいませんでしたから、がっかりしました。ドイツではスカラシップ（奨学金）をたくさん頂いたので助かりましたが・・・（笑）。

ウィーンでは、バドゥラ＝スコダ先生の家で演奏を聴いてもらったのですが、テクニクの不足を指摘されました。でも彼は私のショパンが一番気に入っているようでした。「あなたはずばらしいから自分の好きなように演奏しなさい」と云って下さいました。ウィーンでの生活はどろめまででした。大好きな犬も猫もいない。お金もない（笑）。でも、レナード・バーンスタインに出逢うことができたのは最高でした。

思い出の楽譜は子供のときに使っていて、レオニード・クロイツァー先生をおどりがあがらせたショパンの楽譜くらいのものでしょうか。その楽譜はいまでもパリにあります。が、お見せするほどのものでもないでしょう（笑）。

モスクワ・フィル、ヴァイオリンのマキシム・ヴェンゲーロフ、チェロのミッシェル・マイスキーとの共演は印象に残っていますね。スペインのバルセロナ、モスクワ、サンフランシスコ、ニューヨーク、ミンスク、パリ、ブダペスト、ブカレストなど、いろいろな町で演奏するたびにサインを求められ嬉しい気分です。